様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００００８８

研究課題名（和文）新出資料の調査と分析に基づく沖縄仏教史・真宗史に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research on the History of Buddhism and Shin Buddhism in Okinawa through Investigation and Analysis of Newly Discovered Materials

研究代表者
福島　栄寿（Fukushima, Eiju）

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：２０４５３２９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新出資料に基づく琉球・沖縄真宗史の実態解明である。初年度より断続的に、九州・沖縄への現地資料調査を実施し、重要な新出資料を複数発見することが出来た。これら新出資料は、翻刻かつ活字化して、リポジトリを通じて広く公開出来た。中でも1877（明治10）年に発生した琉球藩庁による真宗信徒取締り事件（「第三次真宗法難事件」）を巡る琉球藩庁側と東本願寺側による調停関連資料の発見は、重要な成果である。新出資料群に基づく当該事件の顛末の分析を通じて、琉球藩庁と東本願寺と明治政府という三者の思惑を明らかにすることが出来た。また、「琉球処分」と当該事件の顛末の関連性を解明することが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近代仏教史・真宗史の研究分野では、琉球・沖縄地域に焦点を当てた研究は不十分な蓄積しかなかった。その意味で、本研究の成果が、特に当該学術研究分野に、新知見をもたらすことが出来た点は、重要な意義と言える。そして、新出資料類を翻刻し、かつそれらの資料に基づく複数の研究成果を印刷媒体や、大学機関リポジトリを通じて、広く学界及び社会に公開することが出来た点も、本研究の意義である。　また、関連する複数の学術学会での口頭発表や、真宗大谷派の研究機関並びに関連施設での研究報告の実施、加えて沖縄県内の公立施設での講演等を通して、本研究の成果を社会に還元することが出来た点も、本研究の重要な意義である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the actual situation of the history of Shin Buddhism in Ryukyu and Okinawa based on newly discovered materials. Since the first year, we have intermittently conducted field material surveys in Kyushu and Okinawa, and have been able to discover several important new materials. These new materials were made widely available through repositories. The discovery of materials related to the mediation between the Ryukyuan government and Higashi Honganji regarding the control of Shin Buddhist believers by the Ryukyuan government in 1877 is a particularly important achievement. Through the analysis of this suppression case based on these documents, we were able to clarify the intentions of the three parties: the Ryukyu domain government, Higashi Honganji temple, and the Meiji government. We were also able to clarify the connection between the "Ryukyu Disposal" and this suppression case.

研究分野：近代仏教史・日本思想史

キーワード：琉球・沖縄真宗史　田原法水　真宗布教　第三次真宗法難事件　小栗憲一　清原競秀　辻遊廓

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

仏教史研究の研究状況は、『近代仏教スタディーズ』（2016）、仏教史学会編『仏教史研究ハンドブック』（2017）が相次いで出版されるなど、学界内外での関心が高まっていたが、近世から現代までの沖縄仏教史、とくに浄土真宗に関する研究は、仏教史のみならず日本史・琉球史などの研究分野において、いずれも不充分であった。近代における浄土真宗の布教史を見ても、明治初期に琉球と同時期に行われた北海道・清国・朝鮮の布教活動に関しては記念誌が刊行されている。だが、琉球については正式な布教史は、刊行されていない状況であった。そののような中でも、伊波普猷『浄土真宗沖縄開教前史』（1926 年）、玉代勢法雲『真宗法難史』（1927）が、数少ない業績としてあったが、1877（明治 10）年に発生した「第三次真宗法難事件」に関しては、事件後の実態を知る上では、不充分な部分が多かった。加えて、沖縄戦により多くの資料が散逸したため、資料面においても不充分な点が多かった。

以上のような研究状況の中、本研究開始に先立つ数年前、真宗大谷派沖縄別院職員の長谷暢氏（研究協力者）によって、真宗僧・清原競秀（1820～1897）が、琉球藩へ布教に訪れた際の日記『日々琉行之記』が、九州の真宗寺院から発見された。これを契機として、本格的に明治期の真宗と琉球関係史について取組むために琉球・沖縄仏教史・真宗史研究の第一人者である知名定寛氏（研究協力者）と、琉球真宗史に研究実績を持つ川邉雄大氏（研究協力者）、長谷暢氏と共同研究会を立ち上げ、準備を始めることとなった。

長谷暢氏が実施した九州地域の真宗寺院への事前調査の結果、明治期琉球へ布教に渡った真宗僧たちにゆかりのある九州地域の寺院には、資料が未発見の状態で収蔵されている可能性が強まったことから、新出資料の調査に重点を置き、共同研究に取り組むこととした。

以上のように、本研究開始当初は、明治期の浄土真宗と琉球・沖縄の関係史についての研究は、その解明に関して特に重要な論点となる「第三次真宗法難事件」について知る手がかりとなる資料にも乏しく、既出資料に基づく成果しかない状況であった。そうした研究状況の中、何より、共同研究に取り組む上で、願ってもない研究メンバーに恵まれたことと、新出資料の発見と新知見の獲得への可能性が高まっていたことが、本研究への着手の大きな動機付けとなった。

２．研究の目的

本研究の目的は、従来の仏教史のみならず日本史・琉球史研究で、特に不充分な研究状況にある沖縄仏教史研究、なかでも浄土真宗の布教活動や展開の実態に関して、近世から現代までを視野に入れて総合的な研究を行うことである。そして、沖縄における仏教の特徴や問題点などを 研究し、日本本土の仏教史の展開と大きく異なる点を明らかにすることである。

琉球仏教史を振り返れば、13 世紀には中国から琉球に伝来した仏教の真言宗・臨済宗は、近世には琉球王国の王家が受容したが民衆に浸透することはなかった。他方、浄土真宗は、琉球では近世初めに征服した薩摩藩の影響で禁教であったが、遊女などには密かに浸透し、明治初年には真宗信者たちへの弾圧事件（「第三次真宗法難事件」1877 年）も発生した。

遊女たちへの布教方法としては、仏教の専門用語を琉球語に訳して使用し、辻遊郭という場所で秘密裏になされていたが、その実態は、不明な点も多いままである。しかし近年、明治初期に浄土真宗の布教を目的に琉球藩に渡った僧侶たちの日記が、彼等の出身地・九州地域の真宗寺院に現存することが判明し、さらなる資料の存在の可能性も高く、資料調査が必要である。すなわち、本研究では、こうした資料調査を実施することで、研究史に新知見を付加し得る新出資料を発見すること自体が、重要な研究の目的の一つである。

さらには、新出資料に基いて、1877（明治 10）年に発生した「第三次真宗法難事件」の顛末を解明すること、そして、当該事件と、1879（明治 12）年に明治政府が断行した「琉球処分」（廃琉置県）との関連について考察し、明治国家と宗教（浄土真宗）の関係性を検討することも重要な研究目的となる。

３．研究の方法

本研究の目的を達成するために、次の三つの研究課題を設定して取り組むことを、研究方法とした。①沖縄地域における真宗僧侶の布教活動、および明治初期の真宗法難事件の解明。②近世中期から近代にかけて形成された、学問所・咸宜園を中心とした九州地域と沖縄を結ぶ布教僧たちのネットワークの解明。③現代沖縄の仏教布教に関する現地調査を実施し、近世から現代までの総合的な沖縄仏教史・真宗史像の解明を行う。以上である。

具体的な手立ては、以下の通りである。①の研究課題については、a）九州・沖縄地域の真宗寺院、真宗関連の施設において現地資料調査の実施をした。発見した複数の新出資料を研究協力者と手分けして写真撮影し、共同作業で翻刻を行い、定期的に開催した共同研究会（対面・

オンライン）で検討を行い、印刷物・リポジトリとして公刊した。b）公刊した新出資料群に基づき、設定した研究課題である布教活動や真宗法難事件の実態等についての検討と分析を、共同研究会で実施し、それらを踏まえて論文として研究成果を公刊した。

②の研究課題については、咸宜園と関連施設等現地を訪れ、真宗僧との関係について調査をし、必要な資料類を入手した。加えて、咸宜園や近世教育史に関連する資料類を入手し、それらの資料類の基づき、共同研究会において検討した。

③の研究課題については、現代の沖縄において真宗信仰の受容のあり方に着目しつつ、現地調査・インタビュー調査・資料調査を実施した。例えば、1957 年に開所された沖縄県竹富島の浄土真宗本願寺派の喜宝院布教所調査では、現住職へのインタビュー調査、及び前住職の布教所日誌の撮影をし、共同研究会において翻刻、検討を実施した。他にも、沖縄県読谷村内の浄土真宗本願寺派寺院に本土から赴任して布教活動をしていた前住職へインタビュー調査、同じく読谷村の彫刻家で琉球親鸞塾を主宰している金城実氏へのインタビュー調査を実施し、戦後から現代における沖縄における浄土真宗の受容の諸相について検討を行った。以上の三つの研究課題への取り組みから見いだされた知見を総合的に検討することで、九州地域と沖縄を結ぶ布教僧のネットワークの解明や沖縄仏教史・真宗史像の解明を試みた。

加えて、以上の取り組みによって得られた研究成果は、関連する学会、真宗大谷派関連施設、沖縄県内施設等において、発表、報告、講演を通して公開したが、それぞれの場で聴講者から寄せられた有益なアドバイスや意見を研究課題の検討に活かせたことも、当該研究を進める上で、重要な方法となった。

４．研究成果

本研究の成果として、第一に、新出資料を学術雑誌と学術リポジトリで公開することができた点を挙げたい。現地資料調査によって発見した新出資料を翻刻し、成果として、学術雑誌への掲載並びに学術リポジトリを通して、広く公開することができた。第二に、それら新出資料を共同研究会において分析と検討を行うことで得られた新知見により、これまでの明治期琉球・沖縄真宗史の知られざる史実を明らかにすることができた点を挙げたい。それらの共同研究会における分析と検討に基づく研究成果として、「第三次真宗法難事件」の顛末と、辻遊廓における遊女への真宗布教の実態を解明することができたと考えている。

公刊した新出資料を具体的に挙げれば、①真宗大谷派鹿児島別院蔵『明治十一年三月整頓　琉球上申書類綴込』、②真宗大谷派鹿児島別院蔵『琉球国内務省出張所往復書藩庁往復並応接記綴込』の二点がある。①の資料は、「第三次真宗法難事件」の解決に動いた真宗僧・田原法水の東本願寺当局への上申書の綴込である。当該事件発生の経緯、及び事件の実情、そして内務省へ信徒赦免と事態収拾を願う東本願寺側の窮状を知ることができる重要な資料である。②の資料は、琉球藩庁との調停役に東本願寺側から派遣された真宗僧・小栗憲一による東本願寺当局への上申書類の綴込である。琉球藩の内務省出張所（木梨精一郎所長）で開かれた琉球藩庁と東本願寺側との二回の応接・対辨（明治一一年八月二日・二二日）記録が綴られてあり、非常に重要である。特に、内務省と東本願寺側の画策により、この対辨の結果、琉球藩庁側が非を認めたことは、明治政府に「琉球処分」（廃琉置県）断行の口実を与えることとなり、この事件の解決を機に、「琉球処分」（廃球置県）は完結していったことが知られる。新政府の動向と軌を一にして、北海道へ、また清国、朝鮮への「開教」活動に着手していた東本願寺にとって、琉球布教は、それら未開拓地への「開教」活動の一環であり、明治政府の動きと同調するものであったことが明らかとなった。

また、上記の新出資料に基づく考察によって、「第三次真宗法難事件」の顛末について、その詳細をかなり明らかにすることができた。その研究成果は、福島栄寿「明治初年琉球の真宗布教―『真宗法難事件』と廃琉置県（琉球処分）―」（『立命館文学』660 号、2019 年）、知名定寛「琉球における第三次真宗弾圧事件と『琉球藩王尚泰訴状』について」（『神女大史学』第 36 号、2019 年）、福島栄寿「明治初期琉球における「第三次真宗法難事件」の顛末とその意味―新出資料を手がかりとして―」（大谷大学日本史の会『歴史の広場』25 号、2023 年）、川邉雄大「明治期琉球における第三次真宗法難事件と小栗憲一」（『近代仏教』30 号、2023 年）に、公開することができた。これらの研究成果は、「第三次真宗法難事件」の顛末には、清国、日本と両属関係にあった明治初期琉球という特殊な状況下において、東本願寺、明治政府、琉球藩のそれぞれの思惑が大きく働いていたことを解明している。そして、明治期琉球と浄土真宗の関係に関する総論として、知名定寛「明治初期における東・西両本願寺と琉球」（『真宗総合研究所研究紀要』第 40 号、2023 年）を研究成果として公開することができた

以上の研究成果は、日本宗教学会、真宗連合学会、日本近代仏教史研究会、大谷大学日本史の会、琉中歴史関係国際学術会議といった学術大会で報告を行い、学界へのフィードバックを積極的に行った。また、複数の真宗大谷派関連施設や真宗大谷派付置研究機関における招待講演を通じて、教団関係者へのフィードバックを実施した。加えて、沖縄県立図書館内において公開講演を開催し、沖縄県民に向けても、研究成果を公開することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　11件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　10件）

１．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	４．巻 39
２．論文標題 「【資料】翻刻　真宗大谷派鹿児島別院蔵「琉球国内務省出張所往復書藩庁往復並応接記綴込」（後）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所編『真宗総合研究所紀要』	６．最初と最後の頁 79-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 福島栄寿	４．巻 64
２．論文標題 明治期初期琉球における真宗布教に関する一考察－清原競秀『日々琉行之記』をめぐって－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 真宗研究	６．最初と最後の頁 277－299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	４．巻 第37号
２．論文標題 〈翻刻〉真宗大谷派鹿児島別院蔵　明治十一年三月整頓　琉球上申書類綴込	５．発行年 2020年
３．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	６．最初と最後の頁 1－51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	４．巻 第37号
２．論文標題 【要旨】〈翻刻〉真宗大谷派鹿児島別院蔵明治十一年三月整頓　琉球上申書類綴込	５．発行年 2020年
３．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	６．最初と最後の頁 7－13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	4．巻 第38号
2．論文標題 〈翻刻〉真宗大谷派鹿児島別院蔵　琉球国内務省出張所往復書藩庁往復並応接記綴込	5．発行年 2021年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 1－49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	4．巻 第38号
2．論文標題 【要旨】〈翻刻〉真宗大谷派鹿児島別院蔵　琉球国内務省出張所往復書藩庁往復並応接記綴込	5．発行年 2021年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 1－9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 知名定寛	4．巻 第36号
2．論文標題 琉球における第三次真宗弾圧事件と「琉球藩王尚泰訴状」について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 神女大史学	6．最初と最後の頁 17-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	4．巻 第37号
2．論文標題 〈翻刻〉【要旨】真宗大谷派鹿児島別院蔵　明治十一年三月整頓　琉球上申書類綴込	5．発行年 2020年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福島栄寿・知名定寛・川邉雄大・長谷暢	4．巻 第37号
2．論文標題 〈翻刻〉明治十一年三月整頓　琉球上申書類綴込	5．発行年 2020年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 1-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福島栄寿	4．巻 660号
2．論文標題 明治初年琉球の真宗布教―「真宗法難事件」と廃琉置県（琉球処分）―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 立命館文学	6．最初と最後の頁 466-480
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福島栄寿	4．巻 25号
2．論文標題 明治初期琉球における「第三次真宗法難事件」の顛末とその意味―新出資料を手がかりとして―	5．発行年 2023年
3．雑誌名 歴史の広場―大谷大学日本史の会会誌	6．最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 知名定寛	4．巻 40号
2．論文標題 明治初期における東・西両本願寺と琉球	5．発行年 2023年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 151-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川邉雄大	４．巻 30
２．論文標題 明治期琉球における第三次新宗法難事件と小栗憲一	５．発行年 2023年
３．雑誌名 近代仏教	６．最初と最後の頁 125-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　7件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球における真宗史－第三次真宗法難事件に関連して－
３．学会等名 大谷大学日本史の会2021年度大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球の「第三次真宗法難事件」に関する史料研究
３．学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 近代琉球真宗史を紐解く－新出史料を手がかりとして－
３．学会等名 真宗大谷派教学研究所「宗門近代史の検証」研究班主催研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 薩摩と琉球の繋がり～真宗禁制解禁150年に向けて～―新出史料に見る明治初期琉球における真宗布教とその諸相―
３．学会等名 鹿児島別院仮掛所設置記念法要（於：真宗大谷派鹿児島別院）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球の真宗布教と「法難事件」に関する研究
３．学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球における真宗布教に関する一考察―清原競秀「日々琉行之記」をめぐって―
３．学会等名 真宗連合学会第66回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 川邉雄大
２．発表標題 琉球における真宗法難事件の研究と課題
３．学会等名 第17回琉中歴史関係国際学術会議（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 琉球国末期、 禁制下における真宗（仏教）布教～辻遊廓での布教日誌を手がかりに～
３．学会等名 大谷大学公開講演会（於：沖縄県立図書館）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球における真宗布教～布教日記を手がかりに～
３．学会等名 真宗大谷派難波別院暁天講座（於：真宗大谷派難波別院）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球と真宗―「第三次真宗法難事件」を中心に―
３．学会等名 日本宗教学会第81回学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 知名定寛
２．発表標題 真宗禁制一五〇年に向けて
３．学会等名 真宗大谷派鹿児島別院仮掛所設置記念法要（於：真宗大谷派鹿児島別院）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 福島栄寿
２．発表標題 明治初期琉球における真宗―布教活動と「第三次法難事件」をめぐって―
３．学会等名 京都大学人文科学研究所「近代日本と宗教と文化」研究班第5回研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 川邉雄大
２．発表標題 明治期琉球における第三次真宗法難事件と小栗憲一
３．学会等名 日本近代仏教史研究会第30回研究大会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	知名　定寛 (China Sasahiro)		
研究協力者	川邉　雄大 (Kawabe Yudai)		
研究協力者	長谷　暢 (Nagatani Masashi)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関